

## 巻頭言

2019年度は、前年度の活動を受けた二つの重要事項がありました。それは、①前年度に改定したカリキュラムが動き始めること、②前年度に具体的方針を固めた本学の「教育の質保証」体制が大学基準協会の認証評価の受審によって評価されることです。①においては科目の統廃合や配当年次の変更があり一部の教員の担当科目に影響がありましたが、大きな混乱はなく順調に滑り出しました。②に関しては、10月に行われた大学基準協会の現地調査においてこの点に質問が集中し、社会的重要性を実感させられました。幸い大きな指摘は受けずに認証され、今後は本学流のPDCAサイクルを動かして「教育の質保証」を実質化することが求められます。その一環として卒業生に対する第三者評価を得る目的で就職先の医療機関からの聞き取り調査を1～2月に行いました。この結果は自己点検評価の資料とし、2023年度からの次期中期計画に反映させる予定です。

その他の実績として、高大接続入試改革に関連する検討に注力したこと、受験生確保のために高等学校との関係を強めたこと、教員評価の体制を単年度評価から5年ごとの評価に切り替え、その試行開始の準備を整えたこと、開学20周年を記念する事業の準備に力を入れたことなどがあげられます。入試改革については国からの求めに応じて検討しましたが、最終的には国が英語4技能検査や記述式問題の導入延期を発して一旦終息しました。受験生確保に向けて非常勤のアドミッションアドバイザーを任用し、高校の進学指導のタイミングに合わせた高校訪問を行うなどの改善を図りました。また能登地区の3病院の協力を得て中学生対象のナーシングカフェを開催し、看護を志望する若者の掘り起こしを始めました。

大学院看護学研究科においては、学部卒業に続いて進学できる学内入試日程を導入し、助産師を目指す学生以外に初めて1名の研究コース進学者が決定しました。将来が期待されます。

その他に、図書館ではデータベースや学習スペース環境の改善が行われました。また地域ケア総合センターではかほく市の街角交流館を活用した新事業の立ち上げ、国際貢献事業の拡充（パラグアイの日系社会に対する草の根プログラム開始の検討）などがありました。看護キャリア支援センターでは次年度から再開する感染管理認定看護師教育の準備を整えました。

最後に、2019年度の特記すべき事項として、年度末から新型コロナウイルスの感染が日本にも及び、入試や卒業式には厳重な感染予防対策が必要となりました。また大学運営や教員の研究活動、海外との交流活動が予定通り運ばず、大きな影響が発生しました。

このように最後には予定が狂った事項もありましたが、総じて多忙な年でした。この年報には、教育研究に真摯に向き合った教職員の成果、一人ひとりの学内外での役割・活躍や、個人で努力したことの成果等がほぼ網羅的に掲載されています。また委員会活動をはじめとするこの1年の大学全体の様相も示されています。

皆様から本学に対する忌憚のないご意見をうかがえれば幸甚です。

石川県立看護大学 学長 石垣和子



第 20 回入学式  
(2019 年 4 月 3 日)



夏のオープンキャンパス  
(2019 年 7 月 13 日)





第 15 回夏期アメリカ看護研修  
(2019 年 8 月 28 日～9 月 10 日)





韓国看護研修

(2019年8月25日～9月8日)



JICA 日系研修

(2019年7月1日～7月12日)



JICA 青年研修

(2019年12月5日～12月17日)





管理者研修  
(2019年9月27日)



認知症看護認定看護師教育課程 修了式  
(2020年2月12日)



第16回卒業記念  
(2020年3月14日)

